

# NPO法人 介護サービス非営利団体 ネットワークみやぎ



## 新年のごあいさつ

NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ  
理事長 内館 昭子



新しい年が明けました。

2016 年は、東日本大震災から 5 年となります。

いまだ県内では 4 万 8 千人を超える (2015 年 11 月末現在) 方々が、不自由なプレハブ仮設住宅・民間賃貸のみなし仮設住宅での暮らしを余儀なくされています。東日本大震災の被災からの住まいの再建は、災害公営住宅の整備がすすむ中でも、次の目途がたたない被災者にとって厳しい状況が続いています。東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センターは、2015 年 11 月緊急シンポジウムを開催し、被災者転居支援の実情を共有しました。そのなかで、一人ひとりが希望のもてる住宅再建を目指して、行政が文字通り「伴走」して最後の一世帯まで支援し続けることが、今ほど求められている時はないと、アピールしています。介護ネットみやぎ 22 構成団体役職員のみなさまの被災地へのあたたかいご支援に深く敬意を申し上げます。

2016 年度国家予算は、社会保障費の自然増を 4,997 億円に抑制する実質切り下げとなる内容です。2015 年度に消費税増税に伴う「低所得者対策」として実施された福祉給付金は半減、子育て給付金は廃止されます。今後、社会保障費の自然増さえ抑制していくつもりです。安心して子育てができ、安心して働ける、安心して老後を迎えられる、そんな福祉社会をつくるために、憲法 25 条と社会福祉法 6 条に国と地方公共団体の責務が規定されているのです。

介護ネットみやぎが実施した「2015 年度介護報酬改定に伴う影響調査(アンケート)」への 19 法人 64 事業所からの回答で、固定費の削減やケア加算・処遇改善加算で対応しても、2015 年度は収支差額的大幅減収予算となっています。ほぼすべての法人から介護人材の不足が問題点として挙げられました。厳しい事業運営が続きます。介護ネットみやぎは、情報の公表調査・外部評価調査・第三者評価事業の認証機関として 3 事業の質を高めるとともに、社会福祉・社会保障充実への活動をごいっしょにすすめてまいります。

本年もよろしくお願い申し上げます。

### 介護ネットみやぎの基本理念

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。介護が必要な人にとって、体のケアだけでなく、心のケアも念頭においた利用者本位のケアプランが作成され、安心して介護サービスを受けられることが最も大切です。私たちは知恵と力を合わせ、良質な介護サービス提供と健全な事業運営のためにいっそうの研修にはげむとともに情報を共有しネットワークをひろげ、もって要介護者と介護者の人権擁護(尊重)、地域住民の福祉向上に資することを目的とします。

**介護ネットみやぎ参加団体** 宮城県生活協同組合連合会・みやぎ生活協同組合・生活協同組合あいコープみやぎ・松島医療生活協同組合・みやぎ県南医療生活協同組合・JA宮城中央会・公益財団法人宮城厚生協会・宮城県高齢者生活協同組合・社会福祉法人仙台ビーナス会・社会福祉法人こーぶ福祉会・社会福祉法人宮城厚生福祉会・社会福祉法人みんなの輪・特定非営利活動法人ゆうあんどあい・特定非営利活動法人WACまごころサービスみやぎ・特定非営利活動法人ひまわり・特定非営利活動法人ほっとあい・特定非営利活動法人グループゆう・協同組合日専連仙台・宮城県民主医療機関連合会・宮城県労働者福祉協議会・宮城県医連事業協同組合・企業組合労協センター事業団東北事業本部

### ●2015 年度総会第 3 回理事会報告

12 月 16 日（水）14 時から、フォレスト仙台 5 階 501 会議室において、第 3 回理事会を理事 6 人と監事 2 人の出席で開催しました。協議事項は、NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎの名称変更について、協議しました。報告事項として、1. 実務担当者会議、2. 「情報の公表」調査事業、3. 地域密着型サービス外部評価事業、4. 福祉サービス第三者評価事業、5. 介護保険制度政策立案チーム、6. 宮城県認証評価制度検討会について、7. その他、①介護保険白書シンポジウムについて、②横濱理事より、NPO 法人団体の「井戸端空き家の見守り隊」・「井戸端お助け隊」の情報提供をしていただきました。

### ●2015 年度第 4 回実務担当者会議・意見交流会

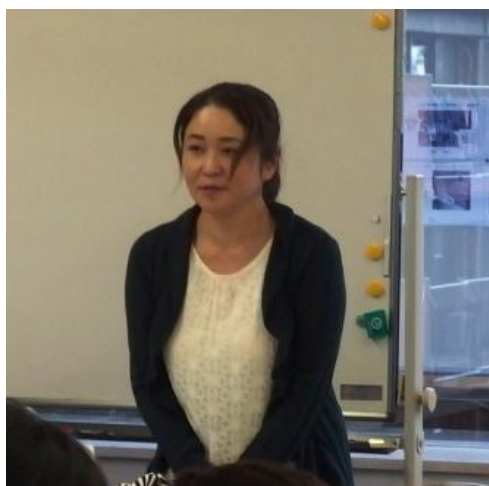
11 月 12 日（木）14 時から、フォレスト仙台 5 階 501 会議室において、第 4 回実務担当者会議・意見交流会を開催しました。実務担当者、サービス提供責任者、ケアマネジャー等が介護報酬改定後の影響について交流しました。

はじめに、助言者寺崎弘子さん（NPO 法人宮城県ケアマネジャー協会仙台支部副支部長）は、国はサービスの充実と重点化・効率化を目指していること。2025 年までには計画的に病院のベッド数を削減し、入院日数も短縮するような医療体制をつくり、要介護者を地域に返すことを目指していること。現在も医療と介護の連携は十分な体制がとられているとは言い難く、施設から在宅へと移行するための連携に重要な役割を担う介護支援専門員の課題として、資質の向上に係るもの、自立支援に資するケアマネジメントが実践できるような環境整備などがあげられていると話されました。

3 つのグループに分かれて、介護報酬改定後のケアマネジメントの変化や現状について交流しました。介護保険事業が減収となり、事業収益で今まで実施していた自主事業（介護保険外）の運営が困難となった。介護報酬の改定でサービスの減算対象（介護支援センターを運営する法人等の介護サービス事業所に利用者が集中することの限度）が厳しくなり、使いたいサービスの事業所を利用できない。インフォーマルサービス（介護保険外サービス）を提供する事業所も近隣になく、減算を覚悟しているなどの状況報告があり、現場のケアマネジメントの困難さが出されていました。

16 時から実務担当者会議を開催し 8 人が出席、2015 年 4 月からの介護保険制度改定後、現場でどのような変化があったのか交流しながら、問題点として捉えるところはどんなところかを出し合いました。

ヘルパーは介護の専門性（本来は見守りや話し相手等を通して認知症などの適切なケアをする）を要求されるが、実際はサービスの提供に時間制限があり、本来のサービスに活かさない。介護職員処遇改善加算ではなく、介護事業所全体が成り立っていくように制度改正してほしい。同性介助で男性を採用したい、新人は来るがすぐに辞めてしまい、職員が高齢化しても補充ができないなど、厳しい現場の状況等が出されました。



NPO 法人宮城県ケアマネジャー協会  
仙台支部副支部長 寺崎弘子さん



意見交流会の様子

## ●「2015 年度介護報酬改定後の影響調査」実施報告

4月に行われた介護保険の制度・報酬改定は、2025年に向けての「地域包括ケアシステム構築」を見据えたものとなっています。改定された介護保険制度の具体化は、保険者である市町村の第6期介護保険事業計画で、被保険者に示され、介護保険料の増額、8月からは一部の方の利用料の自己負担分も増え、今まで利用できていたサービスの制限など、要介護者と家族の方々にも不安が広がります。

介護ネットみやぎは、2015年度の介護保険制度改定とそれに伴う介護報酬改定が、要介護者と家族に、介護サービス事業者に、どんな影響をもたらし何が問題なのか、現場からの実態を集約する目的で、介護報酬改定後の影響調査（アンケート）を実施しました。アンケート調査は、介護ネットみやぎ参加団体（法人23、通所介護サービス事業所31、訪問介護サービス事業所28、特別養護老人ホーム5）に対して、8月に実施し、19法人64事業所から回答がありました。

結果は、法人では2015年度の事業活動収益予算を前年比マイナスとしたところは、全体の31.6%（回答率82.6%）で最も予算を下げた法人は前年比93.0%でした。通所介護サービス、訪問介護サービスも過半数以上の事業所が今年度の第一四半期の収益が減少したと回答し、中でも特別養護老人ホームは深刻な減収状況になっています。介護職員処遇改善加算等の加算をとるなどの対策は取ってはいるものの、今回の介護報酬改定による影響は大きなものとなっています。

詳しい結果の内容については、介護ネットみやぎのホームページ新着情報をご覧ください。

**介護ネットみやぎ URL: <http://www.kaigonet-miyagi.jp/>**

## ●2015 年度第 2 回調査員合同研修報告

11月19日（木）10時30分から14時40分までフォレスト仙台5階501会議室において、情報の公表調査・地域密着型サービス外部評価調査の調査員38人の参加で開催しました。

午前の部では、介護サービス情報の公表訪問調査において注意すべきことを確認しました。情報の公表向上検討委員長の渡辺礼子さんから「介護サービス情報の公表」制度調査票項目（基本情報と運営情報）について神奈川県介護保険課神奈川県指定情報公表センター作成の調査票記入マニュアル（2015年度版）を基に説明いただき、訪問調査時に確認する材料について共有しました。また、2015年度から基本情報に加わった「実践的な職業能力の評価・認定制度である介護プロフェッショナルキャリア段位制度の取組」項目のアセッサーについて（社福）みんなの輪統括管理責任者の山崎彰子さんに説明していただきました。

午後の部は、地域密着型サービス外部評価の学習をしました。猪又実さん（小規模多機能介護施設「みんなの家」施設長）から「認知症の方がその人の力を発揮できる支援について」と題して、みんなの家の行事や日常の利用者の様子などをDVDで紹介していただきました。「みんなの家」は木がふんだんに使われ、太い梁の見える吹抜けの天井、格子の戸袋、薪ストーブなど、どこか懐かしく、ぬくもりがあり、ここで暮らしたいなあと感じられる施設です。職員は「自分だったらどのように世話をしたいか？」と考え、利用者が掃除、洗濯たたみ、包丁を使った食事準備、縫い物、畑の収穫など家庭で行っていたことを継続することで生き甲斐が感じられるように支援しています。毎月訪れるボランティア、季節毎や日常的な外出、地域の方々や子ども達700人参加の夏祭りなど楽しい一日になるように支援しており、利用者や家族、職員、地域の方々の笑顔から充実した日常が感じられました。

及川美恵子さん（「みんなの家錦織」管理者・介護ネットみやぎ調査員）から「グループホームみんなの家錦織の取組について」と題して、外部評価20項目にそって説明いただき、利用者や職員が生き生きと過ごしていることがうかがえました。今年から始めたオレンジカフェ（認知症の人と家族、地域住民、専門家等の誰もが参加でき、集う場）に数十人の地域住民の参加がありました。共用型指定認知症対応型デイサービスの提供など、地域に根ざした運営と地域からの期待や信頼がうかがえ、猪又さんと及川さんの施設運営の考え方や利用者支援のあり方などについて、これからの外部評価訪問調査の際に、大変参考になる講話でした。



みんなの家：猪又実さん 及川美恵子さん

## ● 友誼団体活動紹介

### 社会福祉法人仙台ビーナス会

#### 「設立二〇周年を迎えて」

理事長 高橋 治

閉上の海が間近に見える、広瀬と名取の川が落ち合うところに、仙台ビーナス会は平成七年に設立され事業を始めました。

ゴールドプランが発表された「措置」の終わりの頃で、昨年丁度二〇周年を迎えました。

やがて、介護サービスは、家族介護から社会で支え合うものという名のもとに「介護保険」になり、年が過ぎ、今や自助・互助が基本だということで「地域包括ケア」が言われるようになりました。

しかし、制度や環境が変わっても、個人に寄り添う自立支援の大切さと、地域のニーズに応えるという介護・福祉の原則は不動のものと考えています。

だから、私たちはこの二〇年間出来る限り「科学的介護」を追求すると共に、事業種別も、特養ホームなどの施設サービスをはじめ、24時間訪問介護・看護などの居宅サービス・地域包括支援や、更に介護・医療の連携を目指して訪問看護・訪問診療など、地域で展開するように努めてきました。

結果として、「地域包括ケア」のネットワークづくりに繋がっていただければと考えております。

しかし、「公助」をへらすために、本来は自主・自立の行為である「自助」やボランティアを上から押し付けるような体制づくりを警戒しながら、これからも努力していききたいと思います。



仙台ビーナス会 理事長 高橋 治氏



社会福祉法人仙台ビーナス会

### NPO 法人宮城県認知症グループホーム協議会

会長 蓬田隆子

宮城県認知症グループホーム協議会は、認知症グループホーム（以降 GH）の質の向上と会員の交流を通じたモチベーションアップを目的に、平成 11 年 1 月に設立されました。最初は連絡会でしたが、宮城県の委託事業の受託をきっかけに NPO 法人格を取得して運営にあたっています。

27 年度は宮城県より「認知症カフェ設置促進・普及啓発事業」を受託し取り組んでいます。現在、正会員 143GH、準会員（小規模 2・個人 3）の構成になっています。宮城県内を 4 ブロック（県北・県央・仙台・県南）に分けて、全体の活動の他に各地域の特性に合わせた研修や交流会などの活動を行っています。また、委員会として、研修・制度政策・災害対策・広報・実践報告の 5 つの委員会があり、精力的に取り組んでいます。研修は年間に中央研修として対象者スタッフ・管理者・介護計画作成担当者・経営者および特別研修の計 7 回と各ブロックで 4 回程度の計 16 回、合計 23 回以上実施、他に事業所同士の交換研修など活発に取り組んでいます。また、年 1 回 200 人規模の実践報告会を実施し、啓発を行っています。年 1 回、実態とニーズ把握のためのアンケート（宮城県内（仙台市を含む）のグループホーム事業所 142 ホームを対象に運営状況に関する実情）を行い、協力団体と一緒に仙台市及び宮城県に要望書を提出し、意見交換を行っています。

介護職員不足の中で厳しい状況にありますが、GH が地域の拠点になっていけるよう、皆様のご支援を頂きながら活動に取り組んでいきたいと思ひます。

NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ <http://www.kaigonet-miyagi.jp/>

事務局 〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台

TEL 022-276-5202 ・ FAX 022-276-5205 E-mail : sn.mkaigonet2@todock.jp